

戸沢議員

(1) 8年間の市長の実績について

この10月を迎えると、市長は秋川市長を五期、合併後、あきる野市長を2期、合わせて七期を勤めてきた。市議会は市行政を監視しチェックする任務を持っており、その立場から、市長の果たしてきた役割と任務について問う。

実績として主張できる成果は。

秋川市長時代に五日市町との合併を実現させた。あきる野市となり、市制20周年目を迎え、合併後の今の想いは。

市長は昨年12月議会で、私の一般質問の答弁で「入るをはかりていずるを制す」と語った。この言葉は大企業経営から発せられた言葉である。

地方自治体の任務は、地方自治法第1条の2「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」とある。地方公共団体の本旨に基づき、改めて「入るをはかりていずるを制す」の立場から次のことで問う。

ア 「入るをはかる」では、どのような施策が行われ、何を実践してきたか。

イ 「いずるを制す」では、どのような施策が実践されてきたか。

(2) あきる野市民の定住政策について

現在のあきる野市の人口は、平成27年2月1日現在81,631人で前年度と比べると230人の減となっている。先般、東京都市議会議長会主催の「人口減少時代をどう乗り越えるか」と題する講演を聞き学んできた。東京一極集中と少子化対策を課題として講義されたが、あきる野市も東京でありながら人口が今後減少する傾向にある。地方自治体の本旨に基づき、暮らしと福祉の充実に取り組むことが定住政策の基本である。そこで、次のことについて問う。

五日市線の昼間のダイヤが3本から2本へと9本が減ってしまう。昼間の時間帯ダイヤは約30年前のダイヤ運行と同じ時間帯へ後退してしまう。市長の考えと対応は。

拝島駅西口のロータリー化により、東海大学菅生小・中・高の児童・生徒、帝京八王子高校、明大中野の生徒達の通学バスによるピストン輸送が考えられ、その結果、五日市線の利用が減少することが考えられる。市の見解は。

高齢者がいつまでも元気に住み続けられるようにと、健康づくり推進協議会がつくられ市の特性を生かした事業が進められている。「めざせ健康あきる野21事業」、編み物、手芸、リズム体操の集いなど高齢者元気事業、市民プールやいきいきセンターにおいて各種事業の取り組みが行われている。しかし、一回の参加費を500円から1,000円の受益者負担がある。さらに家族、知人が送迎しないと参加できない等の問題もある。高齢者が外出することは、老後の生活を元

気に住み続けられる基本である。この際、無料にするよう検討することを求める。
市の考えは。

地域の安心・見守り活動が「共助」のもとで進みつつある。網の目のような地域ごとの情報収集と、「手助け」対応が求められている。そのために、活動を保障するセンター的拠点が求められている。空き家利用やセンターを提供する家に対し支援が必要である。市の「見守り活動」の展望は。

子育てするには、あきる野市に住み続けたいと思うような施策展開が必要である。
市の見解は。